

7月 さつき園だより

24年7月 さつき幼稚園理事長 萩谷雅一

前夜からの豪雨と雷が朝にはぴたりと止み、今年のさつきまつりも無事終了することができました。園児達はハッピー姿に身を包み、元気一杯におみこしを担いで町内を練り歩きました。保護者の皆様にも楽しんで頂けたようでとても良かったとほっとしています。午後にはたくさんの園児・保護者・卒園生・旧職員・地域の皆様も来られてお楽しみ会の縁日が開かれ、大いに盛り上がりました。お手伝いの保護者の皆様にはご協力いただき本当に有難うございました。

このおまつりが終わるといよいよ夏本番、一学期も残り僅かとなります。早いもので4月から4ヶ月、どの学年の子どもたちにも成長がみられます。年長さんには一番上のクラスだという自覚が現れ、とてもしっかりとしてきました。年中さんには可愛い幼児期から急速に脱皮して成長していく勢いが感じられます。年少さんは初めての集団生活にも慣れてきて、一人ひとりの歩みはそれぞれでも、基本的な生活習慣が確実に身につけてきています。そしてたんぽぽ組を含めて全園児が楽しそうに登園してきてくれているのが何より嬉しいことです。

さて、最近の話題としては大津の公立中学のいじめ事件をあげないわけにはいきません。事件はいじめの範疇を超えて校内暴力事件そのもののように思われますが、学校・市教委の対応の悪さをみていると本当に被害者の中学生は浮かばれません。こういう事件が明るみに出るということは、この何十倍、何百倍の同様な事件が全国で起こっているのに表に出ていないだけではないかと心配です。こうした問題を隠蔽している閉鎖的な教育界の体質に大きな問題があるといわざるを得ません。私達幼稚園も出来るだけ情報公開に努め、保護者の皆様とのコミュニケーションを絶やさないようにしていますが、一層努力していかなければなりません。それにしても、このような酷いいじめをする中学生はどのような幼児教育を受けてきたのか知りたいところです。というのは、OECD（先進国経済協力開発機構）の世界的調査でも「良質な幼児教育を受けた子ども達の将来の犯罪率は極めて低くなり幸福指数は高くなる」との結果が明確にでているからです。私達もこうしたいじめ（暴力）を絶対にしてはいけないことを徹底的に教え込むと同時に、いじめを目標したら見て見ぬふりをせずきちんと対応できる子、またいやなことをされたら敢然と言い返しまわりの人にも訴えられる知恵と力を身につけた子ども達を育てていかなければならないと改めて思いを新たにしているところです。